

市長記者会見記録

日時：2023年9月19日（火）14時00分～14時27分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：「交通×プリント」でSDGsの取組を進めていきます！～公共交通の利用促進などによる持続可能なまちづくりの実現に向けて～

<内容>

【議題】

≪「交通×プリント」でSDGsの取組を進めていきます！～公共交通の利用促進などによる持続可能なまちづくりの実現に向けて～≫

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。

本日の議題は、「『交通×プリント』でSDGsの取組を進めていきます！～公共交通の利用促進などによる持続可能なまちづくりの実現に向けて～」となっております。

初めに、本日御同席いただいている方を御紹介いたします。ブラザー販売株式会社代表取締役社長安井宏一様でございます。

【ブラザー販売】 安井でございます。よろしくお願いいたします。

【司会】 後ほど御挨拶を頂戴したいと存じます。

それでは、まず、福田市長から本議題について御説明をいたします。

市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 よろしく申し上げます。

本日、川崎市とブラザー販売株式会社は、「持続可能なまちづくりの実現に向けた連携協定」を締結いたしましたので、お知らせをいたします。

本市では、多様な主体が一体となり、市民の皆様が愛着と誇りを持つことができる活力と魅力にあふれたまちづくりに向け、持続可能な地域交通環境の向上を目指し、取組を進めているところです。

ブラザー販売様は、プリンターやミシンなど人々に寄り添う製品などを通じて、「つなぎ合う」ことに全力で取り組み、一人では抱え切れない課題を多様なパートナーシップから生まれる新しいアイデアで「解決し合う」社会の実現を目指しておられます。

これまでもブラザー販売様には、イベントへの出展など、様々な御協力をいただいております。簡単で作りやすいプリントコンテンツは、お子様やファミリーの心をつかみ、多くの支持をいただいたところでございます。

このように、本市とブラザー販売の取組は、持続可能な社会を実現していく点で方

向性が合致していること、また、これまでの連携実績も踏まえ、両者で連携協定を結び、それぞれが持つリソースを活用した共創により取組を加速してまいります。

公共交通における運転士不足など、交通環境を取り巻く様々な問題を捉えながら、ブラザーのプリント技術やノウハウを生かした幅広い分野での連携を通じて、一人一人が楽しみながら行動変容する取組の充実につなげてまいります。

市内を運行する交通機関をテーマとしたプリントコンテンツを本市が主催するイベントで活用することにより、環境に優しい公共交通への関心を喚起し、利用促進を図ります。

また、新本庁舎、本市の名所を遊びながら学べるペーパークラフトやすごろく、未就学児を対象とした工作や塗り絵、ハンドメイドの温かみを感じられ、多世代の交流にも寄与するミシンを活用した取組など、ブラザー様が持つ資源と地域の様々なプレーヤーの力を掛け合わせることで、川崎の魅力を知り、川崎が好きな人の輪が広がり、みんながつながり支え合える持続可能なまちづくりの実現を目指してまいります。

本市は来年、市制100周年を迎えます。今回、ブラザー販売様には、市制100周年記念事業の実行委員にも御参加をいただきました。本市といたしましては、市制100周年の機運醸成や次の100年を見据えた、持続可能なまちづくりに向け、より一層取り組んでまいります。

私からは以上です。

【司会】 続きまして、本日おいでいただきました安井代表取締役社長からも、御挨拶をお願いしたいと存じます。

安井様、よろしくお願いいいたします。

【ブラザー販売】 皆様、今、御紹介いただきましたブラザー販売の安井でございます。よろしくお願いいいたします。

まず初めに、私たちブラザーグループについて簡単に御紹介させていただきます。ブラザーは、1908年に海外からの輸入ミシンの修理業として、愛知県の名古屋市で創業いたしました。

その後、ミシンの国産化に成功し、独自の技術開発等により蓄積したコア技術を、タイプライターやその他家庭用の家電製品の製造・販売を経て、現在では、プリンティング事業や産業用機械などを取り扱う会社へと発展してまいりました。

その中で、私どもブラザー販売は、日本国内の製品のマーケティングを担当しております。プリンターなど情報通信機器事業、ミシン、ガーメントプリンターなどのホームファッション機器事業といったもの、その2本の柱を軸に国内での個人や企業、

それからクリエイターの皆さんと、様々なお客様に製品とサービスを提供してきております。

ビジネスの現場や暮らしの中で、お客様のそばに寄り添って、お客様のビジネスでの成功と発展を、暮らしの中に楽しさを提供することを基本として活動してまいっております。これからもますます、我々の製品やサービスを通して社会に貢献してまいりたいと考えております。

ブラザー販売では、SDGsのゴールの年である2030年までのあり続けたい姿として「つなぎ合う、そして解決し合う社会」を実現することを目指しております。

今回の川崎市役所様との連携協定では、プリンターで印刷して簡単に作れる、市のバスですとか建物などのペーパークラフトを使って、塗り絵やすごろくなどプリントコンテンツの製作を通じて、市民の皆様への公共交通機関利用促進へ活用していただくと考えております。

そして、その先にある、目的であります低炭素社会の実現や、人々の交流を軸とした、そこから生み出される市民同士のつながり、関係強化を目指して、お役に立っていただければと考えております。

2020年頃から、川崎市様とは、主にペーパークラフトの提供を通じて、各イベント等で共に活動してきておりますけれども、市制100周年を迎えられるこのタイミングに協定を結ぶということで、これからもさらに長く、住みやすい、住み続けたいまち川崎市の実現へ向けて、共に活動ができることは大変ありがたく思っております。

私どもブラザー販売は、ペーパークラフトやミシンを活用いただくことで、地域に住む皆様がサステナブルな、今後も豊かに暮らしていただくためのきっかけづくりに貢献してまいりたいと思っております。

私からは以上になります。

【司会】 ありがとうございます。

それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。

なお、市政一般に関する質疑については、この後、質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしく申し上げます。

【日経（幹事社）】 日経新聞です。市長にお伺いします。公共交通の利用促進、いろんな手段があると思うんですけれども、プリントを選ばれた理由は何でしょうか。

【市長】 先ほど安井社長からもお話がありましたけれども、2020年ぐらいから、

いろんなイベントで御協力をいただいております。私も、ブラザー販売様に御協力いただいたということを知らずに、市営バスの、市バスの、例えばフロンターレが優勝したときのペーパークラフトを作っていたりとかいうので、自宅に持って帰ったりなんかしてやっていたんですけれども、ただ楽しいというコミュニケーションツールだけではなくて、やはりこれから脱炭素社会に向けて、なるべく公共交通機関を使ってほしいという取組を、こういったペーパークラフトのコミュニケーションツールなどを通じながら行動変容を促していくと。そういった取組にも大いに使えるという、使えると言ったら失礼な言い方ですけども、一緒に御協力いただけるということは大変ありがたいことだと思っています。

【日経（幹事社）】 ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 関連です。毎日新聞と申します。例えばペーパークラフト、こういうものですね、これを使って公共交通機関の利用を促進するというのは、その理論というか、どういう仕組みでやるんですか。

【市長】 様々な仕組みがありますけれども、例えば私たち、来年は市バスの80周年という大きな節目を迎えます。様々な、民間バスの方もそうですけれども、なるべく今、公共交通機関は非常に厳しい時代であります。そういった意味で、親しみやすい交通機関であるということをしてPRしていくとともに、親御様も含めて、やっぱりなるべく環境に優しい乗り物に乗ろうよという形に促すきっかけ、そして、会話のスタートのきっかけにさせていただきたいなど、そんな使い方をブラザー販売様ともいろんな御相談をしながらやっていきたいと思っています。いろんな各種イベント等でそういう機会があるでしょうから、どんな形ができるのかというのを御相談させていただきたいと、これから思っています。

【毎日（幹事社）】 それは例えば、この期間に市バスに乗ると、こういうペーパークラフトがもらえますとか、そういう類いのことなんでしょうか。

【市長】 そうですね、具体的な取組というのはこれから詰めていかなければなりませんが、ぜひうまく形で使っていきたいなどは思っています。

【毎日（幹事社）】 各社、どうぞ。

【朝日】 朝日新聞と申しますけれども、ブラザー様は現在、ミシン会社というよりはプリンター会社なんでしょうか。

【ブラザー販売】 御質問ありがとうございます。私どもブラザー販売で言いますと、約9割方が情報通信機器の販売になっております。親会社のブラザー工業で申し上げますと、7割近くが情報通信機器になっておりまして、ミシンは工業用ミシンと家庭

用ミシンを合わせて10%程度という形になっておりますので、完全にミシンの会社ではなくなってきました。

【朝日】 あと、今回、市長部局、交通局での活用ということですがけれども、市立学校で教材として提供する考えはあるのでしょうか。

【市長】 様々な取組があると思っております、資料にもついておりますでしょうか、例えばすごろくとか、あるいはSDGsを学ぶとかいうことをやられていたり、あるいは100周年の記念イベント、象徴的なイベントであります緑化フェア、こういったところでも色々連携できればいいなと思っております。

それから、2ページ目の一番下、ミシンなどを使ったという取組、高齢者だとか、多世代の市民の皆さんがものづくりを一緒にやるということによって生まれる、ものづくりの楽しさだとか、多世代交流のきっかけというのは、ペーパークラフトであっても、ミシンで何か物を作っていくということであっても、本市のコミュニティーづくりに大変寄与していただけるのではないかなと期待しております。

【東京】 東京新聞なんですけれども、ブラザーさんとして、そういうふうな自治体との連携というのは何例目ぐらいになるのでしょうか。

【ブラザー販売】 細かいものを合わせますと、4例目になります。

【東京】 これまで先行する3例というのは、どちらの自治体なのでしょうか。

【ブラザー販売】 岩手県の滝沢市、名古屋市消防局、それから名古屋市の瑞穂区の社会福祉協議会で、今回、川崎市役所様とで4例目となります。

【東京】 名古屋は社協と消防局ということだったんですけど、今回は川崎市がカウンターパートみたいな形で、交通局ではなく市役所という形でいいんですね。

【市長】 はい、そうです。

【毎日（幹事社）】 市制100周年の実行委員会にも加わられるということですが、これは、当然今回のこの交通関連のイベントだけに限らず、いろいろ可能性があるんだと思うんですけれども、現時点でどんなことをお考えになっていらっしゃるのでしょうか。これは安井さん向けなのではないでしょうか、質問は。

【ブラザー販売】 具体的にまだ、次はこういうステップでというロードマップはできておりませんが、先ほどから申し上げますようにプリンティング、あるいはミシンを活用したイベント等もございますし、それ以外の弊社の製品も含めて、いろいろな形で連携ができていくというふうに、先ほど控室でお話した中でも、新しいことができそうだなという話はできておりましたので、これからますますそういった形でお話を、その委員会を通じて共有できればなと思っております。

【市長】 緑化フェアに合わせてということで、牛乳のパックなどの廃材を利用して、プリントされたものを貼り付けて、保育園・幼稚園との連携みたいなものも考えているようでありまして、草花のプリントコンテンツみたいなものを活用して、子供さんたちとのいろんなものを作っていくという、緑化フェアに合わせた取組というのが、想定では考えているということでもあります。

【司会】 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、写真撮影をさせていただきたいと思っております。安井様と福田市長にはペーパークラフトの周辺にお集まりください。

(写真撮影)

【市政一般】

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。

進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしく願いいたします。

《市立小学校のプールにおける水の流出事故について》

【毎日（幹事社）】 毎日新聞です。プールのお水問題ですけれども、先週支払いがあったということで、市の対応にもいろいろ批判も続いて、まだいるのかな、ネット上でとかではあると思うんですが、支払いを受けて特段何か御感想、受け止め、あればいただけますか。

【市長】 支払いがあったという事実は、教育委員会からもう報告を受けました。何よりもこういったことが起きないようにするということが大事だと思いますので、教育委員会には、再発防止に向けての取組というのをしっかりやっていただきたいと思います。

【毎日（幹事社）】 再発防止なんですが、今回出てきたいろいろな指摘の中で1つあるのが、こういったことがそもそも起きないようにするための準備等というのが学校側でできていなかったのではないかと、あるいはそれを監督する教委等、市側で不十分だったのではないかという指摘があって、それを受けて、教委のほうはちゃんとやりますということであり、今、市長がおっしゃられたようにちゃんとやってくださいねということだと思うのですが、市側から何かの提案といいますか、やっぱり、もちろん量が多くて95万円というのは、支払う側にとっては、ミスはしているのかもしれませんが、相当大きな金額なのは間違いないわけで、今後また同じようなことが起きてしまうのはやっぱりよろしくないであろうと。あまり経験のない人でもスムーズに、間違いなく仕事ができるような仕組みづくりということは、具体的には教委が考えるんでしょうけれども、市長のほうで何かしらアピールというか、お声がけとい

うか、そういった部分で言えることというのは、現時点で何かありますか。

【市長】 とうか、プールだけに限らないことで、学校での施設管理というのは、学校長という形が責任主体になるというのがありますので、いろんな、プールのことが今回事案でしたけれども、あらゆる場面において、そういったミスというのが起こらないような仕組みづくりというのは大切なことだと思いますので、その辺りは日頃からやっているとありますが、そういったヒヤリ・ハットみたいな事例というのが学校でないかということ、しっかりと現場の声を聞きながらチェックしていくということが大事なのではないかなとは思っています。

【日経（幹事社）】 特にありません。各社さん、どうぞ。

《 J F E 京浜地区の高炉等休止について 》

【NHK】 NHKです。まず、コメントでも発表していただいているんですけども、改めて、J F E の高炉が土曜日に休止しました。

2点あって、1つは、100年以上続いた川崎の象徴の高炉の火が今、消えたということに対して、どのような思いを抱いていらっしゃるかということ。

2点目が、今後の土地利用転換、川崎市も進めていかれるところだと思うんですけども、改めてどのようなエリアにしていきたいかという部分について教えてください。

【市長】 J F E スチールは、川崎にとってのものづくり、特に素材・エネルギーという私たちの産業の根幹であったところというのが、1つ火が消えるというのは、本市における産業構造の歴史的な転換点だと捉えています。

今後は、これからの新しい100年、川崎市の発展に資するような新しい産業を生む、そういったエリアに転換していく、そういう好機にしていかなければならないと思っていますので、引き続きJ F E とは連携して取り組んでまいりたいと思っています。

【NHK】 ちょっと追加で、市長、コメントでは、万感の思いというコメントをされていましたが、それはどのような思いでしたか。

【市長】 川崎市内、J F E になる前の日本鋼管の時代からこの地域で働いている方、今もそうですけれども、たくさんいらっしゃいます。そういった意味でも、地域の経済にとっても大切な存在でありましたし、その思いというものはみんなすごく強いものであり、私を含めて、そういった意味での万感の思いという表現を使わせていただきましたけれども、寂しい思いはありますが、これまでの川崎の発展の歴史に大いに貢献していただいたことに感謝をしているとともに、次に、ピンチをチャンスに変え

ていくという川崎の歴史を、さらに繰り返していくというものにつなげていきたいと思っています。

【NHK】 ありがとうございます。

【司会】 ほかにいかがでしょうか。

《新型コロナウイルス感染症について》

【毎日（幹事社）】 では、もう1つ。感染症の流行なんですけれども、コロナにしても何にしても増えていますよね。コロナも横ばい状態にはなりつつあるが、川崎市の場合は、まあでも増えていますよねというふうに言われています。学級閉鎖等も起きていることで、市民に向けて感染予防のための注意喚起のメッセージ等があればお教えいただきたいんですが。

【市長】 まず、5類になったとはいえ、これは重大な感染症の1つであることには間違いないので、基本的な感染症対策というのはしっかり緩めずにやっていただきたいということを申し上げたいと思います。4週連続してコロナの、定点になりますけれども、報告数は増えていまして、1か月で約倍近くになっているということを考えると、非常に深刻な状況だと思っています。

ぜひ基本的な感染対策、繰り返しになりますが、徹底していただくということが、皆さんの大切な健康、命を守ることに繋がるとと思っています。

【司会】 ほかはいかがでしょうか。ないでしょうか。御質問はよろしいですか。

それでは、以上をもちまして定例記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355